

「農産物等の物流効率化とドライバーの労働環境改善・持続的なトラック輸送の確保に向けた懇談会」の開催状況について

去る、9月9日(月) 「県ト協研修会館」において、農産物等の物流効率化とドライバーの労働環境改善・持続的なトラック輸送の確保に向けた懇談会が開催され、農林水産省・国土交通省・長崎県・JA・運送事業者などの関係者36名が出席しました。

懇談会は、伊地知(いちじ)貨物課長(国土交通省)より、「本日は、色々なお話を聞かせていただき、長崎県の農産物輸送の現状について、学んで東京に持ち帰りたいと思う。」旨、野村地方参事官(九州農政局)より、「全国的課題としてトラック運転者の労働環境改善が急務であり、農業サイド皆様の生産物物流に大きく貢献しているので、一緒になって考えていかなければならない。この懇談会は、昨年九州各県でトラック協会とJAの方々とは県レベルで開催しており、長崎で少しでも現状より改善されていけばよいと思う。」旨の挨拶で始まり、松尾食品企業課長(九州農政局)の進行により、議事に入り、

1. 国土交通省 伊地知貨物課長より、「トラック業界を取り巻く当面する諸課題等について」説明があった。
2. 九州農政局 松尾食品企業課長より、「食品等の流通合理化について」説明があった。
3. 長崎県における課題、今後の取組等について

長崎県トラック協会 馬場会長より、「長崎県は、大消費地から遠隔地にありコストがかかる。」、食料品部会 松尾部会長より、「モーダルシフト、パレット等の問題点」、JA全農ながさき 木下園芸部長より、「松尾部会長の言う通りの問題が発生しており、コンテナが主流になっていたが、安全面でトラック輸送に頼らなければならない。」など、物流効率化とドライバーの労働環境改善に向けて活発な意見交換が行われました。

